

## 特別講演 1

# 「より良い不整脈・心不全デバイス治療を求めて」

杏林大学医学部 循環器内科学教室 教授

副島 京子 先生

心不全、不整脈、突然死予防に対するデバイス治療は、近年急速に進歩してきました。心筋梗塞や心筋症による低心機能、遺伝性不整脈に対して植え込み型除細動器(ICD)による突然死予防が有効です。致死性不整脈に対して電氣的除細動や抗頻拍ペーシングを設定しますが、ショック作動は患者にとって苦痛を伴うだけでなくその予後を悪化させるため、より有効な抗頻拍ペーシングが望まれてきました。新たなアルゴリズムが開発され、適切な抗頻拍ペーシングがデバイスにより設定されるようになりました。また、デバイス治療の大きな課題であるリード断線や感染などのトラブルを回避すべく、皮下植え込み型除細動器やリードレスペースメーカーも使用されるようになりました。リードレスペースメーカーでは VVIR モードに加えて VDD、つまり心房の活動を検知して心室ペーシングを同期させるタイプも新たに承認されました。今回はこれらの最新のデバイス治療と患者をいかに見つけて適切に治療を行うかについてお話しさせていただきたく思います。